

令和6年度 社会部会研究計画

1 研究主題

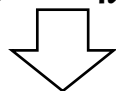
未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成
—社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習—

2 研究の方向性について

※「認識」と「判断する力」の両方をバランスよく育む

↓
社会のことが深く分かる子ども

↓
根拠や理由をもって考えを決められる子ども



○めざす子ども像

社会の特色や意味などが分かるとともに、根拠や理由をもって自分の考えを決める力を身につけ、他者ととともに社会のあり方を考える。そして、未来に向けて考え続け、社会の創り手として、よりよい社会を協働して切り拓いていくことができる子ども。

○主題設定の理由

- ・主権者として予測困難な未来に向けて、協働しながら課題を解決し、変化を乗り越えていく。
- ・一人一人が社会を創る主体となり、持続可能でウェルビーイングが実現されるよりよい社会へ。
→社会のあり方を未来に向けて考え続け、他者と協働しながら社会を切り拓く子どもの育成

○徳島県の主な主張

- ・予測困難な厳しい未来を生きる子どもたちに、**認識と判断する力の両方をバランスよく育む。**
- ・**判断は、主体的・対話的で深い学びを生み出し学習指導要領の目標を実現する工夫**であると同時に、単なる手段ではなく、**主権者として予測困難な未来の社会を切り拓いていく子どもにつけるべき力でもある。**友達などの他者と議論し合う経験を繰り返す中で、認識と判断する力を育む。

○言葉の整理（「認識」「判断する力」）

「認識」用語・語句などの断片的な知識ではなく、**特色や意味などの深まりのある知識**のことと捉えている。徳島県では知識ではなく、「認識」という言葉を用いて研究を進め、**社会のことが深く分かる、社会の意味や特色などが分かる子どもの姿**をめざす。

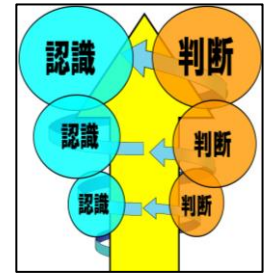
(例)「何のためにしているか分かった」「どのような工夫をしているか分かった」
「その地域がどのようなところか分かった」など

「判断する力」**根拠や理由をもって自分の考えを決める力**であり、友達などの他者と様々な立場や視点をふまえて**対話をし、議論し合う中で育まれていく力**であると捉えている。（「選ぶ」の意味合いも含む）

(例) ごみ処理場の方の「家庭から出るごみの割合が多い」というお話を根拠に、「家庭でごみをあまり出さないように意識してもらうことが必要だから」のように理由を考え、「ごみ袋の有料化に賛成」と決める。

「認識」と「判断する力」の関わり

- ・判断をすることで、身につけた認識が活用されより深いものとなる。認識が深くなると、判断もより深いものとなる。
- ・子どもたちの頭の中では、認識と判断が相互に関わりながら成長をしている。**分かりながら判断し、判断しながらさらに分かっていく**。それを繰り返していくと、自分たちでよりよい判断を下し、未来の社会を切り拓く子どもへとようになっていくだろう。



3 研究内容について

研究内容1 単元構想と振り返り

子どもの意識がつながり、自らの学習を調整しながら主体的に問題を追究できるようにすることが大切である。さらには、学習の場（45分の授業、1単元の授業等）を離れても意識がつながり、よりよい社会の実現、発展に向けて、そのあり方を考え続ける子どもをめざしていきたい。

(1) 単元構想の方策（子どもの意識がつながる単元にする方策）

①単元の導入時

○日常的アプローチ

日常的（単元に入る前）に、関心を高めたり見取ったりし、単元へ意識がつながるようにする。

（例）朝の会の話題、地図や年表の掲示、学級文庫、実物教材、日記や会話からの見取りなど

○学習問題づくり

曖昧さや意外性などから「もっと分かりたい、知りたい」という思いを意図的に高める。

（例）曖昧さをつく、見学・体験・作業的活動、社会的な問題（論争的な問題）・社会に生きる人々との出会い など

②単元展開中

○予想や計画を立てる学習

疑問や予想を分類・整理し、学習計画（学習内容・学習方法）へ生かし、見通しにつなげる。

○予想や計画を立てた後の学習

- ・単元の中に、学習方法等を子どもの意思で選ぶ（任せる）場をつくる

→個別最適な学び、学習調整

（例）1、予想を確かめる資料 2、調べる観点 3、調べる方法 4、調べる順番 5、まとめ方 など

- ・「どんな資料・事実と出合えるようにするか」など意図的・計画的な部分も重要。

→両方を考えて

(2) 振り返りの方策

①振り返りの観点

○自分の学習や変容の自己評価（自分の学習の状況や変容を自覚する観点）

（例）学習前は…学習後は… 予想と比べて… 成長を感じた点は… 自分の調べ方を振り返ると… など

○今後の学習や生活とのつながり（今後の学習や生活と意識をつなげる観点）

（例）さらに調べる(考える)べきことは… 考え続けたいことは… 今後の学習で調べる方法は… など

②考えの見取りと活用

（例）アンケート、立ち位置の変化が見えるワークシート、インタビュー形式の対話、振り返りシート、授業支援アプリなどから考えを見取り、単元の立ち上げや今後の学習に活用していく。

研究内容 2 判断する場面の設定

認識と判断する力をバランスよく育む中核となる場面である。なお、ここでいう判断する場面は、「学習内容」について決めたり選んだりする場面である。学習方法等を決めたり選んだりすること（まとめ方を決める、資料を選ぶなど）は判断という呼び方はせず、研究内容1の一つとして研究を深めたい。

(1) 柔軟な場面設定

- ・判断する力は繰り返し経験することで少しずつ高まる力であると捉えている。
- ・学習指導要領をふまえた中で、「このような場面でも考えを決める学習をつくれないうか」「45分の学習の後半で少し意見が分かれる場面をつくれないうか」のように、それぞれの授業者の創意工夫を生かして、**弾力的に柔軟に判断する場面を取り入れる。**

※毎時間、判断する場面无理やり設定しなければいけないという趣旨ではない。

A 社会への関わり方を考える判断（社会への関わり方を選択・判断）

社会に見られる課題をふまえ、自分たちに協力できること、社会のあり方などを考える。

（例）「私たちはどうすればいいか?」「どのような協力ができるか?」「これからは何が大切か?」

「今は何を優先すべきか?」「これからの社会ではどのようなことを大切にすべきか?」など

B 深く分かることにつながる判断（社会の特色や意味などに迫る判断）

- ・どちらかという認識を深める（社会の特色や意味などを考える）ことに重点。
- ・判断を求めることにより、立場を決めて自分の意見を考え、学んだことを主体的に活用する。そして、社会的な根拠や理由をもとに友達と対話的に意見を伝え合うことで、考えが多角的になるなど、判断するという学習経験を積みながら認識が深まる。
- ・「賛成?」「必要?」「～と言える?」「問題ない?」「特に～なのは?」など様々。

（例）「伝統的な〇〇が新しく□□することに賛成?」について社会的な根拠や理由をもとに判断し話し合う中で、伝統を守る苦勞と、時代に合わせて工夫していることが深く分かる。

C 見通しをもつことにつながる判断（今後の学習につながる予想を含む判断）

- ・学習問題をつかむところ、予想をたてるどころ、授業の導入時などで行うことが多い。
- ・前単元までの学習や社会生活における経験から見出したことを活用して話し合うことが多い。

（例）「(前の時代の学習をふまえて)新しい時代に取り組むべきことは何か?」ということ、予想を含めて判断し話し合う中で、「本当に〇〇なのか調べたい」など今後の学習の方向性を見出す。

(2) 判断への意欲を高める工夫

「友達と話し合いたい」「みんなの意見を聞きたい」のように、判断への意欲が高まるようにする。そのために、これまで研究を進めてきた「問い直し(※)」の発想も生かして、矛盾や相違(ズレ)などから考えをゆさぶり、「迷う」「困る」状況を創り出す等、意欲を高める工夫について研究を進める。

※「問い直し」…分かった(分かったつもりになっている)ことに対して、ゆさぶりの問いを投げかける

<p>「問い直し」(ゆさぶりの)発想も生かして</p> <p>矛盾 対立 葛藤 相違(ズレ) 情意(感情) 課題の明確化 など</p> <p>自分は賛成! みんなは?</p> <p>へんだよ?</p> <p>どれを選んだら…</p> <p>おかしいよ?</p> <p>えっ、なんで?</p> <p>子どもの内に「問い」が芽生える</p>	<p>例えば、次のような要素に注目して教材研究や授業づくりを行う。</p> <p>矛盾 「～なはずなのに…変だよ！」など</p> <p>対立 「…という考えに反対だよ！」など</p> <p>葛藤 「決めきれない…どうしたら…」など</p> <p>相違(ズレ) 「それぞれ違う考えだ…どれがいいの…」など</p> <p>情意(感情) 「…ひどいよ!」「～のために何とかしたい…」など</p> <p>課題の明確化 「課題のここに注目すれば…」など</p>
--	---

研究内容3 考えを深める手だて

社会科らしい学びとなるように社会的事象の「見方・考え方」(空間・時間・相互関係等の追究の視点、比較・分類・総合・関連付け等の追究の方法)を意識して、考えを深めるための手だてを講じる。

(1) 発問・言葉かけ

ゆさぶる、焦点化する、整理する、一般化する・具体化する など

(2) 資料提示

地図・年表・関係図などの資料によって、ゆさぶる、焦点化する、新たな情報を提示する など

(3) 板書

- ・対立する意見を左右に書き分ける
- ・賛成の度合い(考えの立ち位置を表す)
- ・キーワードを囲んで焦点化し、共通点や相違点などを問いかける など

(4) 視点や立場の明確化

- ・「農家(生産者)」と「買う人(消費者)」それぞれの立場から意見を考える
- ・「家庭で」「地域で」「消防署と協力して」火事を防ぐためにできることをそれぞれ考える
- ・「本当にできるか(実現可能性)」「誰がすればよいか(主体)」「今すぐできるか(手軽さ)」考える など

※詳細な研究計画は、社会部会 HP に掲載しております。ご活用ください。
<https://shokyoken-shakai.tokushima-ec.ed.jp/>

